

令和元年度に実施する主な試験研究課題の概要

資料2

鳥取県農業試験場





1 基本方針（ミッション及び主要課題）

「食のみやこ鳥取県」のブランド化と農産物の生産安定を実現するため、以下の4課題に沿って、以下の新品種及び新技術を開発する。


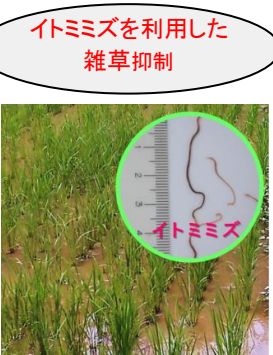
- (1) 市場に打って出る魅力あるオリジナル品種の育成、高付加価値化技術の開発
- (2) 消費者の求める安全・安心、高品質な農林産物の生産技術の開発
- (3) 市場競争力を高める低コスト生産・経営管理技術の開発
- (4) 自然環境と調和した資源循環システムの開発

2 主要課題に対応した試験研究課題

(1) 市場に打って出る魅力あるオリジナル品種の育成、高付加価値化技術の開発

試験研究の方向	試験研究課題及び概要	
◎食味・品質・栽培・加工適性に優れた水稲オリジナル品種の育成	○水田作物品種開発試験（育成S43～、選定S28～） 本県独自ブランドとなる新品種を育成する。 ・早生～中生の良質、良食味な新品種の育成 ・いもち耐病性系統、温暖化対応系統等の育成・品種登録に向けた交配、系統選抜、世代促進 他	 プリンセスかおり コシヒカリ
	本県に適應する稲・麦・大豆の優良品種（県の奨励品種）を選定する。 ・水稲：早生と中生の中間熟期主食用品種、糯品種の選定 ・大豆：早生系統の品種選定、現地適應性の検討 ・麦：ビール麦、六条大麦等の特性把握 他	
	稲・麦・大豆等の有望品種の栽培特性を解明する。 ・水稲、麦等の有望系統の栽培方法の検討 ・水稲主要品種の生育情報の蓄積、解析、提供	
	○主要作物原採種事業（S28～） 水稲・大豆主要品種の優良種子確保のための原々種の維持、原種の生産を行う。	

(2) 消費者の求める安全・安心、高品質な農林産物の生産技術の開発

試験研究の方向	試験研究課題及び概要	
◎水稲・大豆等の有機栽培技術の検証と体系化に基づく新技術確立	○有機栽培技術開発試験（H30～R4） 県内の有機栽培農家の実態を調査・検証し、優良事例の収集、難航事例における問題点の把握を行う。 ・田畑輪換の雑草抑制効果の検証、早期湛水による水稲除草事例の検証 ・水田雑草対策優良事例の要因究明、露地野菜の雑草抑制法の究明	
◎「安全・安心」ニーズに対応した有機・特別栽培における雑草・病害虫防除技術の開発	収集した優良事例及び問題点をもとに、農家が行いやすい技術メニューを確立、拡充する。 ・イトミミズを利用した水田雑草の除草・抑草技術の効果検討、水稲品種の有機栽培条件下での特性把握と検討 ・緑色LED灯による害虫防除技術の検討、畑作の省力可能な除草方法の検討、有機栽培好適品目の検討、有機ダイズ栽培における子実害虫の発生状況、被害実態の把握 ・田畑輪換が雑草発生、土壌の化学性に及ぼす影響の検証 確立した技術メニューを実証、展示し、農家への普及を図る。 ・イトミミズを利用した雑草対策技術の実証・展示、ラッキョウ有機栽培改善技術の実証・展示	

試験研究の方向	試験研究課題及び概要
<p>◎高品質・安定生産を目指す病害虫と問題雑草の総合防除技術の開発</p>	<p>○水稻・麦・大豆の高品質・安定生産を目指した病害虫防除技術の確立 (H27～)</p> <p>被害が問題となっている病害虫（イネいもち病、イネ紋枯病、水稻初中期害虫、ダイズ害虫マメシクイガ等）を対象に本県に最も適した効率的防除法および省力防除法を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネいもち病薬剤耐性菌発生下における防除対策の確立：ストロビルリン系薬剤耐性菌の発生状況の把握、新薬剤等の実用性の確認 ・イネ縞葉枯病の防除対策の確立：新規薬剤効果把握、保毒率把握 ・マメシクイガ対策：発生生態の解明、防除対策の検討 <p>○新農薬の適用に関する試験 (S46～)</p> <p>本県の稲・麦類・大豆等における病害虫および雑草に使用する新規薬剤について、農薬登録に必要な防除効果確認試験等を行うとともに、新農薬の本県における適用性について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺菌剤、殺虫剤、殺虫殺菌剤の適用性試験（日本植物防疫協会の委託試験） ・除草剤の適用性試験（日本植物調節剤研究協会の委託試験）

イネ縞葉枯病
&
ヒメビウンカ



マメシクイガ



イヌホオズキ


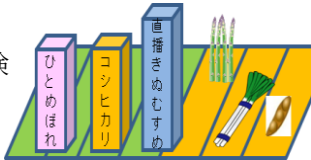
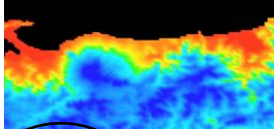

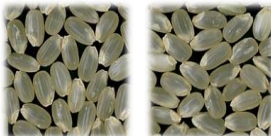


(3) 市場競争力を高める低コスト生産・経営管理技術の開発


試験研究の方向	試験研究課題及び概要
<p>◎産地化を目指す転換畑野菜の高品質で安定的な生産技術の開発</p>	<p>○転作野菜の導入を促進する排水等対策技術の確立 (H28～R2)</p> <p>水田を野菜畑に転換するための効率的な手法を確立し、収益性の高い転作野菜栽培技術の構築を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な排水対策を行うための圃場診断手法の確立 ・土地利用型作物と組み合わせた効率の良い輪作体系 ・水田用機械の野菜作への応用



圃場の排水性調査

試験研究の方向	試験研究課題及び概要
<p>◎水田営農の収益性を改善・向上させる技術の開発</p>	<p>○水田農業経営の効率化に関する調査研究 (H29～R4)</p> <p>「催芽籾湛水直播栽培」、「高密度育苗栽培」、「可変施肥農業機械」等の技術を確立し、大幅な省力化を実現する。</p> <p>例 催芽籾湛水直播</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・催芽籾湛水直播栽培の技術確立 ・高密度育苗栽培の技術確立 ・収量・品質の高位安定化に向けた可変施肥技術の確立 <p>後継者の確保につながる集落営農組織の経営モデル、中山間地向けの水田農業経営モデルを検討し、担い手経営体の経営戦略の参考となるような情報を作成する。</p> <p>例 複合経営モデル</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・米直売、園芸品目、6次産業等を導入した集落営農モデルの検討 ・省力栽培技術を導入した中山間地水田営農モデルの検討 ・畦畔管理、鳥獣害対策等を考慮した中山間地水田営農モデルの検討 <p>○勘から観へ！ICT等を活用した農業生産技術の確立試験 (H30～32)</p> <p>これからの農業を支える大規模農家・営農組織・新規就農者を支援するため、ICT等の技術を活用した農業技術を確立する。</p> <p>例 農業気象データを用いた栽培管理技術の確立</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・農業気象データを活用した営農管理の「見える化」等の検討 ・リモートセンシング技術の導入検討 ・将来の技術革新に対応するため、研究機関等の技術データ収集と蓄積を推進 <p>市場評価の維持向上に努めます</p> 
<p>◎収量と食味の向上を両立させる省力施肥技術の開発</p>	<p>○現在（いま）と未来を担う良食味品種のブランド化を目指す研究 (H30～32)</p> <p>「きぬむすめ」の土壌管理基準の作成により、低食味地域の品質、食味改善をはかる。また、「星空舞」の品質、食味を重視した生産技術の確立をはかる。</p> <p>例 高温登熟性が強く、外観品質の優れる「星空舞」</p> <p>玄米の外観比較</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・「きぬむすめ」食味の高位平準化に向けた技術開発 ・「星空舞」の現地適応性、市場評価等の把握

(4) 自然環境と調和した資源循環システムの開発

試験研究の方向	試験研究課題及び概要
<p>◎農地・農作物の適切な管理のための土壌・作物体・水質のモニタリング</p>	<p>○土壌保全対策技術確立事業 (H19～)</p> <p>耕地土壌のモニタリングにより、有機物含量等の土壌実態の基礎データを得るとともに、実態に応じた適切な土壌管理技術を検討する。</p> <p>例 土壌断面調査</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・定点ほ場の管理概要と土壌断面の調査、土壌分析 他

3 情報発信等の取り組み

◎迅速な成果情報の発信と的確な現場課題の抽出

○身近な農業試験場推進事業

県民に広く開かれた試験研究機関として取り組んでいくために、試験研究成果の一般公開や研究課題に関わる意見交換等を実施する(毎年度)。